ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	財満　和音

主な担当科目	ピアノ教養特論Ⅱ,音楽指導論特殊講義,卒業研究,副科グループレッスン,ピアノ

2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	今年度の教育目標は、多様な背景や特性をもつ学生一人ひとりを過度に特別視することなく、自然な関わりの中で学習への興味と意欲を引き出すことに着目し、学生が安心して授業に参加し、自ら考え、学びに向かう姿勢を育むことを重視しながら、個々の可能性が伸びやかに発揮される授業運営を心がけた。
2025年の教育に関する自己評価	本年度は、各学生が無理なく学習に向き合えるよう、授業内容や進行方法に配慮しながら指導を行ったが、過度に特別性を強調することなく、学びへの関心を自然に引き出すことを心がけた結果、どの生徒も授業への集中度や勉強への取り組みなど、安定した修学環境を作ることができたとみられた。今後も改善を重ねながら、よりよい教育、余裕のある教育を目指していきたい。

2025年のFD活動に関する自己評価	FD研修会に参加して演奏指導や生徒との関わり方について理解を深めた。他の教員の実践例や意見交換を通じ、自身の指導を省みる機会となった。毎回興味深い内容で参加することが楽しみでもあり、他コースの先生方との交流も喜びである。今後もFD活動を通して、実技教育の質の向上に努めたいと考えている。
授業改善のために取り入れた研修内容	留学生への対応に関する研修を通じて、同じ中国出身であっても地域によって気質や価値観に違いがあることを知り、指導や関わり方を見直すきっかけとなった。また、ハラスメント事例を自身の行動に照らして振り返り、夜間のメール送信や言葉遣いなど、日常的な対応についても改めて留意している。今後も相手の生活する背景を尊重した適切な指導に努めたい。

2025 年度（秋学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3344　教員名：財満　和音

1）アンケート結果に対する所見

今回の学生による授業アンケートでは、全体として満足はしているが「この授業はわかりやすくするために工夫されているか」という設問において「あまり思わない」と回答した学生が一定数見受けられたことが印象に残った。この結果を受け、学生が授業内容には一定の満足度を持ちながらも、学修を支援する工夫や伝え方については改善の余地があることを認識した。私自身が教育を受けた時代から四半世紀以上経過しているが、生まれた時からインターネットやデジタル環境に親しんだ世代に対しては、学びへのアプローチや情報の提示方法について、時代に即した工夫を取り入れていく必要性を改めて感じた。

また休講に伴う補講について、本来レッスン・授業のない曜日や時間帯に実施されることへの負担やストレスを感じている生徒がいることもアンケートから読み取れた。今後は、補講の実施方法や日程調整についても可能な範囲で配慮が必要だと感じた。

2）要望への対応・改善方策

アンケート結果を踏まえ、メディアやインターネットを使用した授業では、機器の動作確認や教材の事前準備をこれまで以上に徹底し、授業進行が滞ることのないように努めたい。また、教室の環境や音響設備も含め、生徒側に音声や説明が適切に伝わっているかを随時確認し、より受講しやすい授業づくりを心がける。

更に、個人レッスンの時間変更、休講・補講については、学生が安心して履修計画を立てられるよう、授業・レッスンは原則として定められた曜日・時間に実施されることを基本姿勢とし、やむを得ず変更が生じる場合には、学生への十分な配慮と早めの連絡を徹底していきたい。

3）今後の課題

ICT やデジタルツールなど、新しい手法を取り入れること自体が目的ではなく、それらを活用して学生によりわかりやすく伝える工夫を行うことが重要であると考える。一方で、教員が便利だと感じる方法が、必ずしも学生にとって理解しやすい方法とは限らない。そのため、常に学生の立場に立ち、学びやすさという視点から授業を見直していく姿勢を大切にしたい。

また、デジタル化が進む時代だからこそ、対面でのコミュニケーションを通して相手の理解度や反応を確かめながら学びを深めることの意義は大きいと感じている。今後も学生一人一人との対話を大切にし、知識や技術の習得だけでなく、社会生活に必要なコミュニケーション能力の育成も意識した指導に努めていきたい。

以　上